



蘇る一瞬 みとよ写真帳 page 71

このコーナーは、文書館に保存している古い写真を皆さんに紹介します。



懐かしの1枚
四国横断自動車道
三野地区杭打ち
昭和54(1979)年

三野地区では昭和54(1979)年3月に四国横断自動車道(現:高松自動車道)の杭打ちを行っている。高松自動車道の普通寺・豊浜間の工事はその5年後、昭和59(1984)年に用地買収を必要としない橋梁やトンネルの工事から始まり、本格的な全線着工は昭和60(1985)年になる。昭和62(1987)年に高松自動車道 普通寺・松山自動車道 三島川之江間が開通する。

※文書館では、まちの風景や催事などの古い写真を収集しています。原本はお返ししますので、情報の提供をお願いします。【文書館 ☎63・1010】

「思い出の1ページ」

「これは、高速道路の中心に杭打ちをしているところですね。当時は四国横断自動車道と呼ばれていたんですよ。もう40年前のことになるんですね」と話すのは、当時三野町役場の横断道対策室で働いていた香川秋訓さん(69)。

「高速道路が建設されるといふ話が出て、いろいろな問題がありましたね。地元からすれば騒音問題など心配ですからね。しかし、道路公団はきちんと環境への影響を調査し、防音壁を設置するなど対策を取ってくれました。」

それに利便性向上のためには、高速道路が必要だという認識はみんなの中にありましたから。

当時、私は対策室の職員として3年間、地元の意見を集約し、関係機関と調整する業務をしていました。関係する土地は、宅地以外にもため池や果樹園、会社やお宮さんもあり、地権者は170人を超えていました。道路用地面積でいうと、なんと15万㎡もありました。また、関係するため池は30箇所もあり、高速道路ができることで統合し、改修したりもしました。難しい協議が多かったですね。

毎日のように地元を回るなど、大変なこともありましたが、地元と協議を積み重ね、協力と理

解を得て、ようやく出来上がったときはやはり嬉しかったですね。こんな大きなプロジェクトに携われたことは、今となっては、私の貴重な経験です」と感慨深く当時を振り返ります。

こうして、地元の理解と協力のもと、昭和62年に開通祝賀式が行われ、その半年後には瀬戸大橋が開通、平成18年には三豊鳥坂インターチェンジが開通しました。高速道路は、社会全体における人や物の流れの一翼を担い、通勤や旅行、買い物など、私たちの生活と密接に関わり、なくてはならない存在となっております。



編集 後記

広報担当になって、はや半年が経ちました。今月が私の特集デビュー号です。特集のテーマが女性活躍なのに表紙が男性で疑問に思った人もいるのではないのでしょうか?その理由を紙面を読んで、なるほど!と感じていただければ嬉しいです。頭の中にあるイメージを文字に起こす難しさに悩むこともありましたが、こうやって新しいことにチャレンジさせてくれる職場に感謝ですね。